

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

P T A名	静岡県立掛川特別支援学校 御前崎分校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	36人

1. 使用状況

寄贈物品名	ハンドプレス機(抜き型用工具)
使用学年及び人数	高等部1～3年 36人
使用頻度	週2回の作業学習 年3回の作業製品販売会前の集中作業期間
使用状況	<p>自主生産作業【革工芸班】 ・ネコや犬のキーホルダーやコインケース等の型抜きに使用している。</p> <p>自主生産作業【手工芸班】 ・小物入れやリースづくりにおいて、飾る小さなパーツの型抜きに使用している。</p>
物品の使用による変化や効果 ※1年目との違いを含めご記入ください。	<p>ハンドプレス機の台数が増えたことにより、多くの生徒が使用できる機会が増えた。さらには一人の生徒の使用時間が長くなり、プレスする際の微妙な力加減を身につけることができるようになった。</p> <p>【生徒への質問】 使い勝手はどうですか。</p> <p>【生徒の回答】 最初は力を入れ過ぎることがあり、ふちがきれいに抜けなかったけれど、何回かやっているうちに力加減が分かり、きれいに型を抜くことができるようになりました。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>生徒の製作意欲及び製品の品質の向上、作業時間の短縮による生産数の増加など、当初の目的を大幅に達成した。さらに、令和5年度にいただいたALL2000のハンドプレス機と本機を製品や使用する生徒の技量によって使い分けるなど、使用方法が一気に増えた。今後、さらに活用できる生徒を増やしていくことを考えている。</p>
その他 希望や所感など	<p>当校は、6月のしぶき祭(池新田高校の学校祭)、11月の御前崎市大産業まつり、2月の御前崎市役所販売会の年間3回の販売会を学校生活のテーマとして、自主生産作業に注力しています。本機を寄贈いただいたことにより、生徒の学習意欲がさらに増し、販売会への期待度へとつながっています。</p>

2. 活用の様子

【手工芸班】



手工芸班では、小さなパーツを切り抜くことが多く、ハンドプレス機を使用することにより、だれでも型抜きをすることができます。

＜ヘビの白目と黒目＞
小さなパーツの型抜きには、大型機械で力加減をすれば簡単に切り抜けます。



右の写真は、革工芸班の作業風景でコインケースの型抜きをしているところです。同じ機械を使用した作業であっても、型抜きをする材料の素材や大きさによって力加減が変わります。



右端は完成品、左端と中央の材料を型抜きします。



コインケース